

稲作情報 (Vol.2)

令和8年6月8日
 石巻地方米づくり推進本部
 宮城県石巻農業改良普及センター
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

4～5月の気象経過

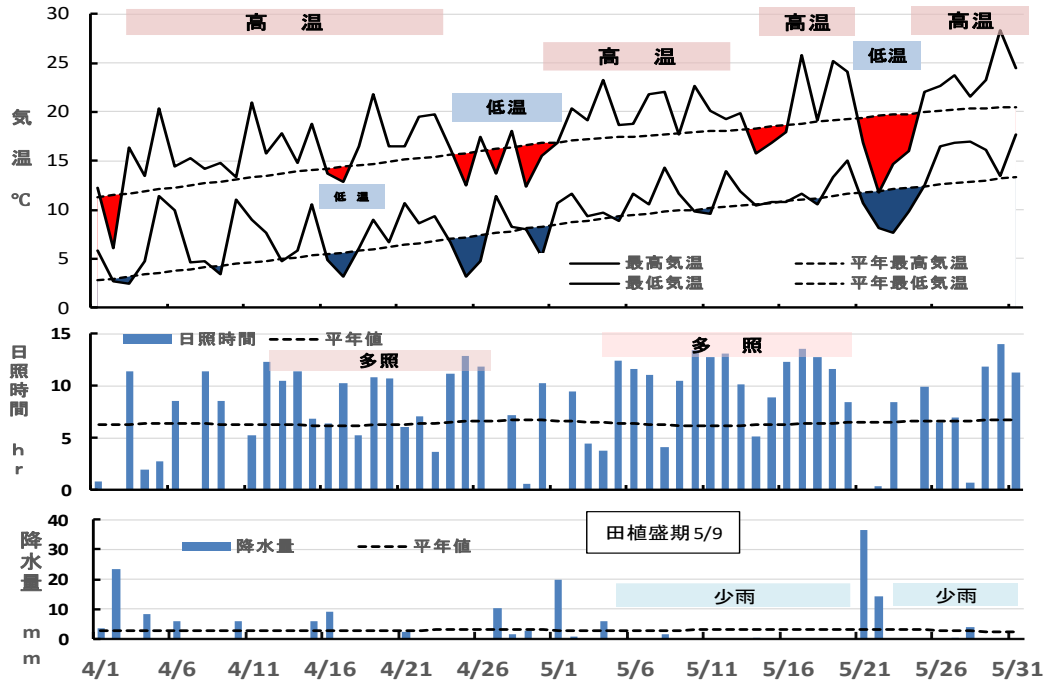


図1 4月以降の気象経過 (アメダス石巻)

- ◎ 4月の気温は、中旬までは平年を上回り、下旬には平年を下回りました。5月上旬は高温傾向でしたが、中旬～下旬は低温と高温の時期が交互に現れ、特に下旬には平年より5℃程度低い時期がありました。
- ◎ 日照時間は、4月上旬は平年比70%とやや少照でしたが、4月中旬から5月下旬までは平年比99～174%と平年並～多照となりました。
- ◎ 降水量は全般的に少雨でした。4月の中旬・下旬の降水量は平年比50%、57%と少なく、5月中旬は降水量は0.5mmとなりました。降水量は少なかったものの、4月は定期的に降雨がありました。
- ◎ 5月は風の強い日が多く、5/2に最大瞬間風速が32m/sに達するなど、最大風速10m/sを超える日が8日出現しました。

田植の概況

- ◎ 管内の田植盛期は平年と同じ5月9日となりました。また、県全体では、平年より2日遅い5月13日でした(表1)。

表1 田植状況

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
石巻管内	5月3日	5月9日	5月23日
前年差	同じ	同じ	1日遅い
平年差	同じ	同じ	2日遅い
宮城県	5月5日	5月13日	5月24日
前年差	同じ	1日遅い	同じ
平年差	1日遅い	2日遅い	2日遅い

※1: 田植の始期、盛期、終期は作付面積比でそれぞれ5%、50%、95%が田植された時期

※2: 平年値は、過去10年から最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均

水稻生育調査ほ・展示ほの生育状況（6月1日現在）

草丈は平年並からやや長い、莖数・葉数は平年並～やや多め

- ◎ 4月第3半旬～第5半旬に気温が高く推移したことから、移植時の草丈は平年より長く、葉数も平年並～やや多くなりました。
- ◎ 6月1日の調査では、草丈はひとめぼれでやや短め～平年並、ササニシキで平年より長くなりました。莖数はひとめぼれでは130～181本/㎡と多めで、ササニシキでは83～109本/㎡と少なめになっています。ササニシキでは植付本数が平年比65～81%と少ないことの影響と推察されます。葉数は4.8～6.2枚と、概ね平年並～多くなっています。5月は第5半旬に低温となった以外は、高温で推移したことが影響していると推察されます。
- ◎ 乾田直播栽培は、3月29日播種のササニシキで出芽揃日が平年よりも6日早い5月4日で、3月18日播種のひとめぼれは出芽揃日が平年よりも2日遅い5月14日となりました。苗立数は128～147本/㎡と平年並～平年を上回っています。

表2 生育調査ほの調査結果（6月1日現在）

品種名	地区名	田植月日	田植時			6月1日			備考
			草丈(cm) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	植付本数 (本/㎡) (平年比)	草丈(cm) (平年比)	莖数 (本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
ひとめぼれ	石巻市河南	5/7 (+3)	15.9 (116%)	3.2 (-0.1)	77 (84%)	25.3 (99%)	130 (109%)	6.2 (+0.6)	平年比・差は参考値
	東松島市矢本	5/10 (+3)	16.6 (111%)	3.1 (+0.4)	113 (116%)	20.3 (87%)	181 (147%)	5.9 (+0.5)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/12 (-2)	14.0 (111%)	3.2 (+0.5)	70 (81%)	25.5 (115%)	109 (103%)	4.8 (-0.1)	
	石巻市稲井	5/9 (+0)	18.3 (116%)	2.7 (+0.2)	59 (65%)	25.3 (116%)	83 (75%)	4.8 (-0.2)	

品種名	地区名	播種日 (平年差)	出芽揃日 (平年差)	苗立率 (%) (平年差)	苗立数 (本/㎡) (平年比)	6月1日			備考
						草丈(cm) (平年比)	莖数 (本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
乾直ササニシキ	石巻市河南	3/29 (-5)	5/4 (-6)	77.3 (+0.7)	147 (103%)	18.0 (94%)	199 (109%)	5.0 (+1.1)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	3/18 (-13)	5/13 (+2)	72.3 (+10.8)	128 (117%)	14.9 (121%)	156 (130%)	3.9 (+1.0)	() は前2か年平均値との比・差

※平年値は前5か年平均値。田植日、播種日、出芽揃日の+は遅いことを、-は早いことを示す。

今後の管理

1 水管理

- ◎ 活着後は、地温が最も高くなる3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。なお、極端な低温が続くと予想される場合には、深水にし、イネを低温から保護しましょう。
- ◎ 生わらや牛ふん堆肥等の未熟な有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素等のガスが発生しやすくなります。このような場合には、中耕や一時的に落水するなど土壌中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。特に近年は高温が続くことが多いので、常時湛水は避けるなど根の健全化を心がけましょう。
- ◎ 除草剤の使用にあたっては、使用上の注意事項をよく読み、除草剤ごとに定められた使用時期、使用量及び適切な水管理に努めましょう。

2 いもち病対策 ～ 補植用残苗は直ちに処分を！～

◎ 県内で発生する本田いもち病の発生源のほとんどは「補植用残苗」です。補植用残苗は速やかに処分しましょう。

◎ 個人防除で葉いもち予防剤などを本田施用する場合は、田植時期の早い遅いにかかわらず6月15～20日頃に施用し、処理後7日間は落水しないようにしましょう。

(※JAいしのまき環境保全米及びS基準では箱処理剤が指定されていますので注意)

◎ 飼料用米や直播栽培など箱処理剤を使用していないほ場では、周辺ほ場の伝染源にならないよう、いもち病予防剤による防除を行いましょう。



写真1 ほ場の補植用残苗



写真2 補植用残苗の葉いもち

3 害虫対策

◎ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシの防除対策は次のとおりです。

＜箱施用剤を使用した場合＞ 本田での防除は必要ありません

＜箱施用剤を使用しなかった場合＞ 次の「要防除密度」により防除の実施を判断します

(※ JAいしのまき環境保全米及びS基準等では、使用できる農薬に制限があるので、防除を行う場合は、JAに相談願います。)

【要防除密度】

イネミズゾウムシ： 侵入盛期(予想5/26～31):けい畔際2m程度の成虫密度:100株当たり140頭(晩期栽培は70頭)

イネドロオイムシ： 侵入盛期：成虫密度:100株当たり25頭、
又は産卵最盛期:卵塊密度:100株あたり80個

4 乾田直播栽培の管理

ほとんどのほ場では5月中旬までに出芽揃いとなり、入水が始まっています。入水後の初中期一発剤を散布する際には、残草している草種や幼齡を確認し、適切な除草剤を選定してください。

水管理は移植栽培と同様に浅水管理としましょう。特に苗立数が不足気味のほ場では浅水管理を徹底し、地温を上昇させ分けつの発生を促しましょう。

漏水している場合には除草剤の効果が十分得られず、適切な浅水管理も困難となることから分けつの発生にも影響が出ますので、確認の上、穴を塞ぐなど漏水対策を徹底しましょう。



図2 乾田直播栽培の入水期の除草体系



写真3 河南乾直ササニシキ (5月4日)



写真4 河南乾直ササニシキ (5月15日)

東北地方1か月予報

(6月6日から7月5日までの天候見通し)

令和8年6月4日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

気温は1週目は低く、2週目は高く、気温の変動が大きいです。

<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北太平洋側	30	50	20
【降水量】	東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北太平洋側	70	20	10
2週目	東北太平洋側	20	30	50
3~4週目	東北太平洋側	30	30	40

宮城県農薬危害防止運動実施中！(6月1日から8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

春の農作業安全確認運動実施中！

令和8年3月1日から令和8年6月30日まで

重点推進テーマ 徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です！！

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は体力低下、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

熱のあがを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときは涼しい



ファッショナブルなネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際もGPSやGPSを認識したいときに活用



ウェアラブル端末、送信機セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、林間の樹を剪りたいときに活用



モストファン